

# 平成 26 年度事業報告

平成 26 年 4 月から消費税がアップし、心配もしましたが、原油安、円安による企業の明暗はありますが、日本経済は落ち着いているような状況です。しかし、国内でも国外でも自然界では、地震や火山の噴火、津波や水害等で多くの尊い生命が奪われ、心痛むことの多い 1 年でした。

当荘はお蔭様で大きな事故もなく無事に過ごす事ができました。

防災面では、阪神淡路大震災から 20 年経過しました。この被災の教訓を忘れず、南海トラフの必ず来るといわれる次の災害に備える訓練や勉強を重ねました。

社会福祉法人の社会貢献という課題については、老施連でも色々検討し、神戸市がしている給食サービスの後を受けて低所得者への配食、会食サービスを始めるべく検討しているところです。

## 重点事項は次のとおりです

神戸市や老人福祉施設連盟をはじめいろいろところで、社会福祉法人は地震、津波、火災等の災害対策をどうするか、虐待は絶対あってはならないこと、更に地域の一員として社会貢献で何が出来るのか、ある意味社会貢献の義務づけを指導されています。これを受けて当荘は次のことを重点課題として考えました。

### 1 施設整備

- 施設の建物の耐震検査を実施してもらうよう準備しています。
- 無断外出者の事故防止のため、通用門にセコムのロックシステムを設置し安全面を強化しました。
- 車イスの利用者が増え、通院や外出時タクシーや自家用車への移乗が困難な方が増えた為、車椅子のまま乗れる福祉車両（日産車）を購入利用しています。

利用者が安全で安心して生活できるよう、荘内外をきめ細かく見直し、必要に応じて小規模改修を実施しました。本館ベランダの防水工事、廊下や玄関に手摺取り付け、全館 LED 照明取替等々。

- 3 月末で、定員が 71 名のところ 62 名になっています。低所得者、虐待や諸事情で住むところのない方のセーフティーネットとして、11 名受け入れましたが 19 名退所となっています。当荘が個室化されていない事が、入所希望が少なく、又一旦入所された方が落ち着かれないことが今年の課題として残されています。

### 2 人権尊重の義務と職員の生活支援のスキルアップ

- (1) 居室や食堂、廊下等におけるトラブルはできるだけ早くキャッチし、カンファレンスを重ねて、良好な人間関係が築けるよう努めました。
- (2) 養護老人ホームは特定施設入居者生活介護事業所と契約している人（要介護者で介護保険利用の方）と一般入所者と混在した施設のため、介護の相違が生じます。ケアプ

ランに基づいてお互いに不満感がつのらぬよう配慮しながら、介護のスキルアップを図り、きめ細かな個別サービスに努めました。

- (3) 緊急事態、災害や、その他問題発生の際には、必要に応じて各機関及び家族と連絡をとり、速やかに対応、問題解決に努めました。
  - 健康管理では、定期健診、嘱託医検診の他、感染症予防に積極的にとりくみ、小さなサインも見逃さず、介護予防に努めた結果、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行はありませんでした。
  - 食事は安全で、新鮮な食材によるバラエティ豊かな献立で、利用者に、嗜好にそって満足されるよう工夫し、生活習慣病にも配慮しました。
  - クラブ活動や伝統行事を取り入れながら毎日を心豊かに過ごせるよう、生活支援の充実を図りました。
  - 認知症、精神疾患、訴えの多い方の相談には十分傾聴し、皆が平穏に過ごせるよう、きめ細やかな精神面のバックアップに努めました。
- (4) パワハラ、虐待防止には特に気を付けて、利用者の人権尊重を第一として介護職員はもとより、全職員が自分の言動に注意し、意識の改革を図り、万一虐待が発生した時は通報の義務がある事の周知徹底等研修を重ねました。
- (5) 個人情報の保持、リスクマネジメントのためのヒヤリハット、報告等法令を遵守した業務管理を行ないました。

上記の通り利用者が安心して安全に過ごせるよう、又当荘に来て良かったと思って頂けるよう全職員がサービスの向上に努めました。

### 3 防災対策

利用者の安全第一を目標に、職員と利用者が協力して防災対策の充実に努めました。

- (1) 火災、地震、風水害等の災害を未然にあるいは最小限に防ぐため、消防署や行政、老施連と連携を取り、防災管理業務を確実に行いました。
- (2) 火災予防
  - (ア) 多量の火気を使用する厨房では、ガス、電気等使用中は、職員はその場を離れず、換気にも注意し、業務終了後は各元栓を締め、確実に保守点検をして安全の徹底をしました。
  - (イ) 喫煙の管理  
喫煙は喫煙所のみとし、寝タバコや歩きタバコ ポイ捨て等は固く禁じ、喫煙マナーを徹底しました。
- (3) 地震、風水害やその他非常時の対応
  - 防災統一点検、チェックリスト、マニュアル作成、情報伝達網、利用者家族や地域との連絡網整備
  - (ア) 生命の安全確保を第一とする。
  - (イ) 避難誘導、安全確認等に関する準備、防災用品、備蓄食等のリスト作成。
  - (ハ) その後の生活に備え、防災用品の適切な場所への配置。

#### (4) 教育訓練の実施

- 防火訓練 毎月1回実施（夜間想定は年1回）
- 防災訓練 年1～2回実施（老施連との連携）
- 防災対策会議 老施連主催及び当荘主催
- 自衛消防隊の一員としての自覚を促し、利用者は各室、各棟の責任者を定め、避難集合場所で点呼して互いの安全確認に協力し、職員は誘導體制の完璧を目指しました。

#### 4 職員の資質向上

養護老人ホームの職員として、又介護保険サービスを実施する特定施設の職員としての役割を認識し、利用者の人権尊重を第一として、援助サービスの充実を図り、知識、技術の向上のための研修を重ねました。

##### (1) 生活相談員（計画作成担当者）

生活の場である養護老人ホームとして、個々が安全、安心に過ごせるよう、又利用者同士も良好な関係が築けるよう生活支援を行いました。

加齢に伴うADLの低下を軽減し、残存能力を生かした日常生活が送れるよう職員は利用者の情報を共有し、ケアプランに添った援助サービス提供を心がけました。

高齢者の尊厳の保持という理念を常に持ち 不適切なケアの防止に取り組むと共に倫理観やコンプライアンス、及びケアの質の向上にも努力しました。

利用者の家族とは常に連絡を取り合い利用者のリアルタイムな状況に対して理解を得、又利用者への支援、援助についても同意が得られるよう説明責任を果たしました。

利用者は、地域の一員であるという自覚を持ち 利用者が地域において円滑に生活を送れるよう施設としても地域貢献に努めました。

計画作成担当者は、特定施設契約者の今迄の生活や価値観を尊重し、本人の希望に沿った援助目標の設定、残存能力を引き出させるケアプラン作成に取り組みました。

##### (2) 介護職員（支援員、ヘルパー）

介護職員は、養護老人ホームの支援員として、利用者の尊厳を重んじながら、利用者全員の生活のベースを見守り、安心して、その人らしく暮らせるよう生活を支援します。又、社会福祉施設本来の役割として、毎日が楽しく心豊かになるよう、クラブ活動や伝統行事も多く計画、実行しました。

一方、訪問介護事業所のヘルパーとして要介護度のある利用者へはケアプランにより個々に必要な介護サービスを提供しました。虐待についての研修を重ね、互いにコミュニケーションをとり、言動にはより注意して、日々の介護に励みました。

##### (3) 医療係

医療係は利用者の健康保持のため、ADLや精神機能の低下の防止を図り、疾病の予防・早期発見・治療・予後の対応に万全を尽くしました。更に利用者が健康増進を図れるような環境づくりに努めるとともに、医療機関と緊密な連携をとり保健、医療の向上に取り組みました。

特にインフルエンザ、感染性胃腸炎等の感染症が発生しないよう予防対策を徹底実施したので今年も荘内での流行はありませんでした。

#### (4) 栄養士・調理係

利用者にとって日常生活の中で一番の楽しみである食事は、単に栄養やカロリーを重視するだけでなく、食の喜びを実感していただけるよう、旬の食材や、周辺の自然な材料を用いて、利用者に喜ばれる季節感の漂う献立を提供しました。

又利用者に、生活習慣病の予防を目的としたリーフレット作成して勉強会を行い、健康増進に勤めていただき、調理の手伝い、調理実習などを通じて、食に興味を持って頂くことで、個々の意欲向上を図りました。

#### (5) 事務係

新会計基準が導入され、新ソフトの使用周知に取り組み更に事務処理と運用に精通するよう努めました。

以上のため、荘内研修、関係機関などの主催する研修、研究会などに参加し、積極的な研鑽に努めました。

### 5 地域社会との連携及び交流

- (1) 北区ケアネットワーク、北区地域包括ケア推進総括協議会や北ブロック会の一員として他施設、他機関と連携して、施設機能を生かした活動を推進しました。
- (2) 地元の小、中、高校、看護大学の実習生を積極的に受け入れ、交流を通して養護老人ホームの現状、元気な高齢者の生活の場を体感され、若い方々の将来に生かされるよう協力、又利用者の有用感や生き甲斐対策の一つとしました。
- (3) 北区の美化運動（クリーン作戦）に参加して地元社会の一員としての自覚、有用感につなぐと共に、地元主催のボランティアまつりに出店するなど地域の中で連帯感を深めました。
- (4) 地域に根ざした養護老人ホームは、セーフティネットとして地域援助サービス、地域貢献についてより具体的に何が出来るかを老施連と共に考察しています。